

●● 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の実施について ●●

指導部主任指導主事 平井 邦明

7 月 4 日（木）に、小学校第 5 学年の児童及び中学校（中等教育学校）第 2 学年の生徒を対象にした、平成 25 年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施しました。各学校におかれましては、円滑かつ適正な実施に御協力いただき、ありがとうございました。

さて、夏季休業期間に入り、採点や調査結果の集計等に本格的に取り組み始めた学校もあるかと思えます。既に区市町村教育委員会等を通じて「採点要領」を配布していますが、採点はもちろんのこと、分析の際にも、ぜひ「採点要領」を御活用いただきたいと思います。

この「採点要領」の内容や活用については、6 月に先生方を対象に実施しました「実施・採点方法等説明会」においても説明をしましたが、採点の補助資料としてだけでなく、児童・生徒一人ひとりの学習のつまずきや課題を発見・分析し、授業を改善するための資料としても活用していただくことができるようになってきました。説明会后には、「子供たちの解答から、どの部分の理解が十分でないのかを分析する際に、参考となる内容が載っている資料なのですね。」「一つ一つの問題について、なぜ、このような解答に至ったのかという視点を大切にしている調査であることを、改めて認識しました。」といった感想もいただきました。

本調査は、『児童・生徒の学力の定着状況を把握し、授業改善を通して学力向上を図ること』に主眼があります。各学校におかれましては、児童・生徒質問紙調査結果を入力して得られる、児童・生徒の意識と調査結果の相関のデータ等も有効に御活用いただき、今後の授業改善に結び付けていただくようお願いいたします。

目 次

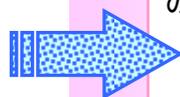
- 平成 25 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を終えて
課題やつまずきの把握から授業改善へ 2
- 「理数教育の窓」— 理数好きの子供たちを育てるために — 4
- 「道徳教育の窓」— 東京の子供たちの豊かな心を育む — 5
- 「特別支援教育の窓」— 全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して — 6

東京都教育委員会ホームページ内に「学び応援ページ」というコーナーがあるのを御存じですか？

「学び応援ページ」には、各学校が、指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図ることを応援するための、様々な事例集や報告書等を掲載しています。ぜひ、御覧いただき、参考にいただければと思います。なお、本通信のバックナンバーも、「学び応援ページ」に掲載しています。

（東京都教育委員会ホームページアドレス
<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>）

学び応援ページを御活用ください！



東京都教育委員会ホームページ・トップページ
の下の方に、このバナーがあります！



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

平成25年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を終えて 課題やつまずきの把握から授業改善へ

7月4日（木）、『児童・生徒の学力向上を図るための調査』を実施しました。この調査の結果から、児童・生徒一人ひとりの学習上の課題やつまずきの状況を把握し、授業改善へとつなげる取組の例を紹介いたします。

小学校・社会

1 「地図を基に身近な地域の様子を、方位、縮尺（スケール）から読み取ることができるか」をみる問題（観察・資料活用の技能）

調査問題は、どの選択肢を選んであるかを分析することで、児童が既習の内容のどの部分に課題があるのか、どこでつまずいているのかを、抽出できるように作成しています。
誤答の分析から、児童の課題を把握しましょう。

誤答の分析から
課題を抽出



＜アを選んだ児童＞

地図上の方角を正しく捉えることができているために選択した。

＜ウを選んだ児童＞

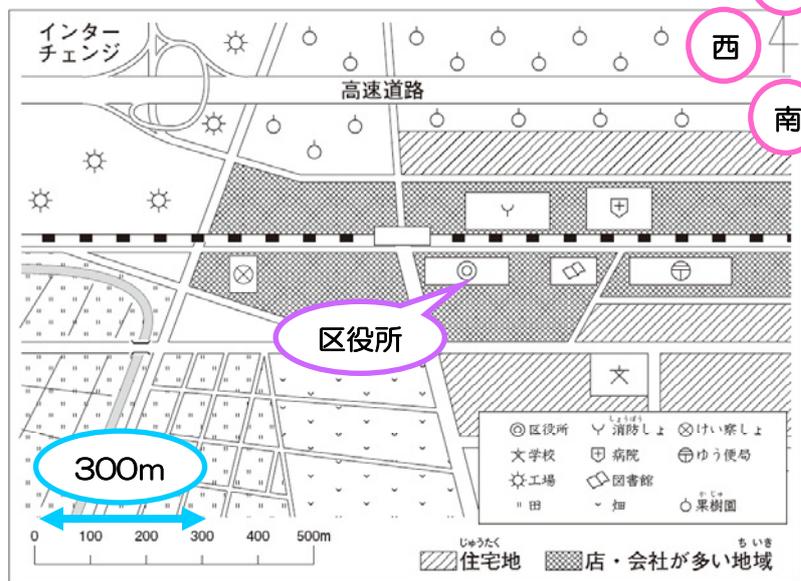
地図上の方角も、縮尺（スケール）も、正しく捉えることができているために選択した。

＜エを選んだ児童＞

地図上の縮尺（スケール）を正しく捉えることができているために選択した。

1 さとるくんの学級では、自分たちがくらす町の様子を調べ、次の地図〈わたしたちがくらす町の様子〉にまとめました。あとの(1)と(2)の問題に答えましょう。

地図〈わたしたちがくらす町の様子〉



(1) 地図〈わたしたちがくらす町の様子〉から読み取れることとして最もふさわしいものを、次のアからエまでの中から1つ選び、記号で答えましょう。

- ア 区役所から北西の方角へおよそ200mの場所に、病院がある。
- イ 区役所から東の方角へおよそ300mの場所に、ゆう便局がある。 ←正答
- ウ 区役所から西の方角へおよそ400mの場所に、図書館がある。
- エ 区役所から南東の方角へおよそ100mの場所に、学校がある。

【観察・資料活用の技能】①

●方位を正しく捉えることができない児童には・・・

地図上で、どちらが北（南・東・西）なのかを方位記号を基に確認させる活動を繰り返すことが大切です。また、「学校から見て、郵便局は北にあります。」などと、方位を使って地図上の施設等の位置関係を読み取らせる指導を丁寧に行うことも必要です。

課題に応じた
手立ての工夫



●縮尺（スケール）を正しく捉えることができない児童には・・・

縮尺の使い方を正しく理解させ、地図上の長さを測る活動を行うことが大切です。また、自分たちが暮らす地域の地図を示し、「自分の家から学校までは何mですか？」などと教師が発問し、実際の距離を確かめさせる指導を丁寧に行うことも必要です。

【球技大会の様子を「物語風」に書く】

児童・生徒に補充的な指導をしたり、発展的な学習に取り組ませたりする際に、調査問題を効果的に活用することができます。

設問のねらいから
課題を抽出



「くやしそうな」表情を効果的に表現できるかをみています。「くちびるをかむ」という慣用表現を理解し自分の表現に用いることが求められます。

「何かをがまんしているような顔で」立っている陽子の様子を効果的に表現できるかをみています。意図に応じて婉曲表現を用いることが求められます。

課題に応じた調査問題の活用
「効果的な表現を工夫する」

【調査問題の活用】

- この部分を、別の表現で書かせる。
- 「そんな陽子になんと声をかければよいのか分からなかった」という部分を、別の効果的な表現に書き直させる。
- この文章の続きを、想像して書かせる。

【発展的な学習】

- ◎ 身近な出来事について、効果的な表現を工夫して「物語風」に書いてみよう。
- 《工夫のポイント》
- ・ 直接感情を表す言葉をできるだけ使わずに別の表現を工夫する。
 - ・ 読み手が共感できる表現を工夫する。
 - ・ 比喩、倒置法、体言止めなどの表現技法を意識して効果的に使う。

【C】佐藤くんの文章の一部
静まり返った体育館。ほくの耳には自分の心臓の音だけが聞こえていた。となりに、くやしそうな、何かをがまんしているような顔で陽子が立っていた。陽子のチームは二組に大差で負けていた。チームリーダーとして、責任を感じているのだろう。ほくはそんな陽子になんと声をかければよいのか分からなかった。閉会式が始まった。大会委員長の天野がみんなの前に立つ。ほくの中で、心臓の音が、さつきより大きくなったように感じた。

(3) 佐藤くんは【C】の——部分を、より工夫した表現にしようと次のように書き直しました。①と②に当てはまる言葉として最も適切なものを、あとのアからクまでのの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

となりでは、陽子がくちびるを①、
ア として イ かねで
オ はげしく声をあげながら泣いていた
カ そつと目頭^{めがしら}を熱くしていた
ク **キ** じつとゆかの一点を見つめていた
やさしくほくをはげましてくれた

ウ そろえて
エ **キ** すばめて

調査問題には、「物語風」以外に、「手紙風」「新聞記事風」「主張文風」の文章例も示しています。意図や目的に応じて書く力を身に付けさせるための教材として、御活用ください。



各学校に配布した「採点要領」には、各教科の全ての問題について、問題作成の意図や誤答の要因と考えられる要素等の解説を載せています。児童・生徒一人ひとりの学習上の課題やつまずきの原因を把握し、より効果的な指導へとつなげるために、調査問題や「採点要領」を、ぜひ御活用ください。

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の調査問題及び解答は、東京都教育委員会ホームページの で御覧いただけます。

「理数教育の窓」 —理数好きの子供たちを育てるために—

中学生科学コンテスト 参加チームを募集します！

東京都内の中学校（中等教育学校前期課程を含む。）に在籍する生徒が理科・数学等の能力を競い合う「中学生科学コンテスト」を開催します。

中学生科学コンテストの概要

- 1 日 時 平成 25 年 11 月 24 日（日）午前 9 時から午後 0 時 45 分まで（予定）
- 2 会 場 都立学校（11 月上旬までに学校に連絡します。）
- 3 対 象 東京都内の中学校（中等教育学校前期課程を含む。）に在籍する 1・2 年生
- 4 競技方法
 - ① 3 人 1 組のチームで協力しながら、理科・数学等に関わる筆記競技と実技競技を行います。
 - ② 筆記競技は、理科・数学等の内容を組み合わせた課題や、実生活・実社会と関連させた課題を出題します。また、これまでに生徒が学習した内容に加えて、新たに示される情報を活用することで課題を解決するものとします。
 - ③ 実技競技は、ものづくりの能力、コミュニケーション能力等を用いて課題を解決する力を競うものとします。
- 5 表彰等
 - ① 筆記競技と実技競技の合計得点で順位を決定します。結果は、平成 25 年 12 月 4 日（水）までに、区市町村教育委員会及び各学校に通知します。
 - ② 成績が上位のチームについては、12 月に表彰します。（東京都庁内の会議室の予定）
 - ③ 成績が上位の 2 チームは、平成 25 年 12 月 21 日（土）から 22 日（日）までの 2 日間、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）で開催される「科学の甲子園ジュニア全国大会」に出場できます。
なお、全国大会出場に必要な旅費は、科学技術振興機構（JST）が支給します。
- 6 参加に当たって
コンテストへの参加は無料ですが、自宅と実施会場間の交通費は自己負担とします。

中学生科学コンテストに参加するには

- 1 3 人 1 組のチームを作ります。（同じ学校から何チームでも参加することができます。）
チームの構成は、次のアとイのいずれかとします。
ア 同じ学校の生徒のみで構成する
イ 同じ区市町村にある複数の学校の生徒で構成する
- 2 「平成 25 年度 中学生科学コンテスト」参加申込書を 1 部作成し、
平成 25 年 9 月 5 日（木）までに、所属する学校に提出します。
複数の学校の生徒でチームを作った場合は、「平成 25 年度 中学生科学コンテスト」参加申込書を 1 部作成した後、コピーをとり、チームの生徒が所属する全ての学校に 1 部ずつ提出します。
※ 安全確保のため、コンテスト当日は、必ず学校の先生に引率してもらってください。
※ 詳細は、東京都教育委員会ホームページを参照してください。
<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/risuu.htm>

★夏季休業期間
中に行われる子
供たちを対象と
した科学に関す
るイベントの一
つを紹介します。

サイエンスリンク

「ワクワクドキドキカガクじっけん カガクのうみへダイブしよう」

- 日程・会場：平成 25 年 8 月 17・18 日 日本科学未来館にて
主 催：サイエンスリンク事務局
(科学を分かりやすく伝える活動を行っている複数の大学の学生等による)
※ 詳しくは、Web をご覧ください。 <http://sc-link.net/>

「道徳教育の窓」

— 東京の子供たちの豊かな心を育む —

東京都道徳教育教材集

第3章「自分を見つめて学ぶ」を活用しよう！

● 自分の生活を振り返ると、どんなことが見えてくる？

第3章は、子供たちが、自分の生活や体験したことなどを振り返りながら自分を見つめ、道徳的価値についての考えを深めていくことができるよう、学習指導要領の道徳の内容項目に基づいたワークシートで構成されています。また、様々な意見を出し合うきっかけとなる資料も掲載し、子供たちが、友達や家族と話し合いながら共に考えを深めていけるものとなりました。

■ 小学校1・2年生版では、イラストや写真などをふんだんに用いました！

写真やイラストを効果的に使用することで、想像力の豊かな子供たちが、教材集の内容について関心を持ち、イメージを膨らませていくことができます。このようにして、子供たちが道徳的価値が自分にとって大切なものだと気づき、理解するとともに、深く心に浸透していくようにしました。

■ 小学校3・4年生版では、書く欄をたくさん設けました！

3・4年生の時期は、子供たちが自分としての生き方を追求していく思考が形成される時期であるとともに、様々な事物への興味・関心や行動力が高まってきます。このようなことから、子供たちが、友達同士で意見を出し合ったり話し合ったりしながら道徳的価値の自覚を深めていけるよう、生活や体験を振り返り、感じたことや考えたことなどを書く欄を設けました。

■ 小学校5・6年生版、中学校版では、名言や説明文等をたくさん掲載しました！

この時期の子供たちは、自我が急激に成長します。自我の成長は、自分の考え方や行動を決定する基盤となりますが、一方で、自分の価値判断への固執を生むこともあります。また、思考力・判断力・推理力等が著しく発達し、行為の結果とともに行為の動機をも十分に考慮できるようになります。さらに、理想と現実のギャップを深く認識するようになることも、この時期の特徴です。

そのような時期の子供たちが、思考力や想像力を発揮させながら自分の考えをもち、道徳的価値の自覚を深めていくきっかけとなるよう、心を揺さぶる名言や詩、興味深いエピソードや説明文の資料をたくさん掲載しました。

● 学校の教育活動の全体を通じて…、学校生活のあらゆる場面で…

道徳教育は、子供たちが人間としての生き方を自覚し、人生をよりよく生きるために、その基盤となる道徳性を育成するものです。したがって道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はそれらを補充、深化、統合する「要」の役割を果たしています。

東京都道徳教育教材集は、道徳の時間の指導において中心資料として活用できるとともに、子供たちの学校生活のあらゆる場面で、臨機応変に活用できるものとなっています。

特に第3章は、多様な内容を網羅していますので、内容の順序や、道徳の内容項目ごとのまとまりにとらわれず、例えば、朝の会で、運動会や合唱コンクールの練習の際に、また、部活動の練習の際や、休み時間や放課後に子供たちと語り合う場面といった学校生活の様々な場面で、ぜひ積極的に活用してください。

すでに文部科学省から発表のあったとおり、「心のノート」の全小・中学生への配布が再開されることになりました。8月14日(水)までに各学校等に直接配送される予定のため、実際に授業等で活用できるのは、夏季休業明けからということになります。

今年度配布されます「心のノート」は、平成21年度に改訂されたもので、現在、文部科学省のホームページに掲載されているものと同じ内容となっています。東京都道徳教育教材集と併せて活用してください。

「心のノート」の
活用について

「特別支援教育の窓」

—全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して—



発達障害の理解と支援



（「平成25年度発達障害への理解と支援に関する講習会」より）

指導部義務教育特別支援教育指導課では、6月19日（水）に「平成25年度発達障害への理解と支援に関する講習会」を開催しました。講演の内容から、指導に生かせるポイントを一部紹介します。

「発達障害の子供への理解と支援—医療と連携した一貫性のある支援に向けて—」

東京都立小児総合医療センター顧問 市川宏伸先生の講演より

- 発達障害の子供は、
 - ・相手の気持ちを理解することが難しく、自分の気持ちもうまく表現できない。
 - ・注意されても、意味が分からず同じ失敗を繰り返して叱責される。このような経緯が二次障害を生み出してしまう。
- 発達障害の子供の二次障害
自己評価の低下、劣等感、自傷あるいは他害、集中力の欠如、興奮、気分変動。
- 発達障害の子供と薬物治療
 - ・治療の効果（薬物の効果）が現れている間に適切な働きかけをする。

講演の内容を生かした小・中学校での指導のポイント



- 二次障害を防ぐ
 - ⇒「分らない」「うまく表せない」子供たちの気持ちを察することを大切にします。
 - ⇒目立たない子供であっても、「学習のつまずきはないか」、「自分の気持ちを表すことができているか」などを見落とさないようにします。
 - ⇒子供が頑張ったことやできたことを十分褒め、子供に自信をもたせることを大切にします。



- 薬による治療を行っている場合
 - ⇒治療の効果が現れて、子供が落ち着いている間に、子供と周りの信頼関係をつくり、学級の中での居場所をつくることを大切にします。



- 小・中学校段階から、将来の社会参加を踏まえた指導を大切にしていきます。
 - ⇒そのためには、「あいさつ」「返事」「報告」などがしっかりできるように指導します。

※なお、当日は、医療社団法人ながやまメンタルクリニック臨床心理士の千田若菜先生から、発達障害の生徒の就労支援についても講演をいただきました。

- 就労支援には、ジョブマッチング（「障害の様子から、どんな仕事に向いているか」「就職先でどんな支援が必要か」）が大切である。
- 障害者の雇用が増加している現状において、今後もジョブマッチングの重要性は増す。
- 主要な関係機関として、障害者就労支援センターや障害者職業センターがあり、学校と連携することでより確かな支援ができる。 といったことなどについて学ぶことができました。

講習会に参加した先生方からは、「医療機関との連携の効果が分かりました。」（中学校教諭）、「社会にどう参加していくのかを考えて指導していきたい。」（小学校教諭）などの感想がありました。各学校や学級の実態に応じて、講習会の内容を生かして具体的な指導の改善を図っていただきたいと思います。